

.....

● ●

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[32]歳、 勤続年数[12]年、 現場経験年数[8] 年、 階級[消防副士長]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[46]歳、 勤続年数[28]年、 現場経験年数[10]年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [過去に 1, 2 回程]、 任務 [複数隊の隊長]
○当事者 C	年齢[26]歳、 勤続年数[5]年、 現場経験年数[3]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [機関員]
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

1.1. 事例発生 の 経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A	救急車から患者を降ろすため ストレッチャー操作をしている時	
経過 2	B	隊員が降りきる前に救急車 後部ドアハッチを閉めた。	
経過 3	A	頭部にドアがぶつかったもの。	
経過 4			
経過 5			
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

集中力、注意力がなかった。周囲の視界が確保できなかった。後方からの監視の目が行き届いていなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。他隊(員)から適切な注意を受けられなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ	
-----	--

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

悪天候や夜間に係らず、慌てずに周囲の安全を確認する。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

救急活動上で起こりやすい事例なので、隊員間の声の掛け合いや、状況の確認を徹底する。